

白川文字学を図書館から発信する

優秀賞



京都府 立命館小学校
司書教諭 大橋 輝子

このたびは「優秀賞」という素晴らしい賞をいただきまして大変光栄に存じます。立命館大学の名誉教授であります、白川静先生の没後十年という節目の年に白川式漢字学習法開発ワーキンググループ（2014年に立命館附属校内で発足）の一員の私が優秀賞をいただきましたことは、大変感慨深いものがあります。この受賞は今後の立命館での実践を期待していただいたものと認識し、さらに白川式漢字学習法の学びを広げ、子どもたちが漢字を成り立ちから楽しく学べる実践を積み重ねていきたいと思っています。

実践の概要

- 1 メディアセンター（図書館）を古代文字に関心が持てる空間にする
- 2 「絵本」と「漢字の成り立ち」をつなげる授業の実践

実践内容

1 古代文字コーナーの設置

メディアセンターに古代文字コーナーを常設し、古代文字の本・古代文字クイズを展示した。本の見出しを古代文字にするなど、常に古代文字が目に見える空間を作った。また、2015年秋には白川静展を開催した。

2 「読書の授業」を活用した指導

2014年度から、読書の授業で行っている「絵本」の読み聞かせや紙芝居を通して「漢字の成り立ち」を学ぶ教材を作ることには出来ないかとの思いから授業を実践した。教材として取り上げた絵本は、おはなしの内容が漢字の成り立ちと結びつくものが多かったが、中には、絵本の「絵」や紙芝居の「絵」に触発され漢字の成り立ちへとつないでいく取り上げ方をした例もある。絵本の読み聞かせを楽しみながら、古代文字にも関心を広げられるものを考慮しながら選定した。2年間で1～6年生を対象に計108時間の授業を行った。



実践の成果

1 古代文字への関心・意欲の向上

- ・読書の授業のめあてである「本の世界を楽しむ」ことにプラスして、古代文字の紹介や説明を加えることでより心に残る漢字やおはなしとなった。
- ・古代文字を動作化やイメージ化することで古代の人の考えを想像することができた。

2 古代文字を学ぶ本の貸出数の増加

- ・この2年間で古代文字を学ぶ本の貸出数が飛躍的に増えた（2014年度の約5倍）

